

令和５年度 地域文化活性化助成 活動成果概要

団体名・個人名	『浪花百景』地域文化研究会
活動名称	錦絵『浪花百景』の地域文化史研究
活動内容	幕末の大坂で出版された錦絵『浪花百景』は、歌川広重『名所江戸百景』と比肩する名所絵シリーズであり、大阪の文化史研究を行なう上で欠かせない作品である。2020年刊行『原寸復刻「浪花百景」集成』（創元社）において、美術史のみならず地域史の両側面に立脚した基礎研究が行われたが、これまでの基礎を発展させるため、本会会員とともに、①「本作に描かれた具体的な場所を特定し、現地調査を行なうこと」、②「研究拠点の高津宮で定期的な研究会を開催すること」を本活動の二本柱とした。
活動のコンセプト・ねらい	『浪花百景』の研究を通じ、地域史と美術史の両側面から本作に描かれた地域の魅力を再発見することが、本活動のねらいである。また、文献調査のみならず、描かれた場所へ実際に赴き調査するという「実践活動」によって、名所「絵」に実際の景色を重ねる具体的な検証を行なうことが、本活動のコンセプトである。

活動実績	<u>令和５年６月１０日</u> 第１回「浪花百景」地域文化研究会 開催 於高津宮 +「浪花百景」の舞台となった実景（「真言坂」、「生玉絵馬堂」等）の調査
	<u>令和５年１２月１６日</u> 第２回「浪花百景」地域文化研究会 開催 於リンク大阪 +「浪花百景」の舞台となった実景（「茶臼山」、「勝曼院愛染堂」等）の調査
	<u>令和６年１月１２日</u> 大阪大学総合学術博物館所蔵「浪花百景」調査
	<u>令和６年２月６日</u> 鹿児島県歴史・美術センター黎明館所蔵 「川端半兵衛文書」（西照庵関連資料）調査
	<u>令和６年３月２日</u> 大阪・個人所蔵「浪花百景」調査
	<u>令和６年３月３０日</u> 第３回「浪花百景」地域文化研究会 開催 於高津宮 +「浪花百景」の舞台となった実景（「玉江橋景」等）の調査

事業の成果・効果	研究会開催（全３回）、『浪花百景』の舞台となった実地調査（全３回）、そして作品調査（全３回）の実施によって、『浪花百景』の魅力が多角的に磨き出され、地域文化の多様な活性化に繋がる素地が醸成されたものと考ええる。 研究会では、「３つの目（虫の目、鳥の目、魚の眼）でみた『浪花百景』」や、「『浪花百景』と歌川広重『名所江戸百景』の比較」、「各所蔵機関別『浪花百景』摺りの比較 一大阪大学総合学術博物館の調査を中心に」、そして「『浪花百景』を手掛けた三人の絵師（国員、芳雪、芳瀧）の役割と作品の特徴」と題した多様なテーマの研究発表が行われた。これにより、『浪花百景』の画中に散りばめられた色紙形の図像の謎や、描かれたモチーフや風俗の地域史的意義、そして作画を担当した三人の絵師（国員、芳雪、芳瀧）の役割等が徐々に明らかとなってきた。 また、『浪花百景』の舞台となった実景を本会会員と巡ることで、錦絵と相通ずる景色を探る重要性もさることながら、残された『浪花百景』の景観を定点観測し、写真として常に記録してゆくことが、地域文化の発展に寄与するのではないか、という気付きに繋がった。
今後の展開	本研究会は令和５年度をもって解散とはせず、令和６年度以降も年に一度、高津宮を拠点として研究会を継続していく旨が、第３回目「『浪花百景』地域文化研究会」において岩井正也会長より発案され、会員の同意を得た。 この度、貴財団の地域文化活性化助成を受けたことによって、本会は大阪の地域文化研究を継続的に行う団体として成長を遂げることができた。「令和５年度」という単年度の期間のみならず、地域文化資源としての『浪花百景』の魅力を、今後とも発信していく予定である。 令和５年度及び今後の活動内容については、メディアプラットフォーム「note」や、地図上で写真を共有するウェブサービスを用いて、広く公開する準備を進めつつある。また、この度の実景調査ならびに研究会における討論で得た新たな知見を書籍としてまとめ、今後数年以内に出版する計画を立てている。これによって、全国的に『浪花百景』の魅力を浸透させる契機にしたいと考えている。

以下、活動内容のわかる写真等を添付してください。



「『浪花百景』地域文化研究会」 活動風景
於高津宮